

News Release

報道関係各位

2012年3月29日

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

「子宮体がんの疑いがある」と言われた方をサポートする冊子『もっと知ってほしい子宮体がんのこと』を制作

— がん診療連携拠点病院 388 施設がん患者相談窓口などに配布 —

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン(東京都文京区、理事長: 岩瀬 哲 以下、キャンサーネットジャパン)は、日本イーライリリー株式会社(兵庫県神戸市、代表執行役社長: アルフォンゾ・G・ズルエッタ 以下、日本イーライリリー)と株式会社毎日放送(大阪市北区、代表取締役社長: 河内 一友 以下、MBS)の制作協力により、科学的根拠に基づいた正しい情報を提供することを目的に、『もっと知ってほしい子宮体がんのこと』を制作、今後、がん診療連携拠点病院 388施設やその相談支援センター(がん患者相談窓口)を含む医療機関などに配布いたします。がん医療情報サイト「キャンサーチャンネル」(URL: <http://www.cancerchannel.jp/>)や、日本イーライリリー、MBSの関連サイトなどからもダウンロードできるようになります。

子宮体がんは、胎児を育てる子宮の内側にある子宮内膜にできるがんで、閉経を迎える前後の40代後半から増え始め、50~60代で最も多くなるのが特徴です。ただ、最近、食生活の高脂・高蛋白化や少子化・初産年齢の上昇といった要因から、40歳未満でみつかると「若年子宮体がん」も増えていることが指摘されています。

『もっと知ってほしい子宮体がんのこと』は、東京慈恵会医科大学の落合和徳教授の監修のもと、疾病、診断、治療ガイドラインにより標準化されている治療、サポート体制のことなど、患者が納得いく治療を受けるために知っておくべき情報を全16ページで掲載しています。また、冊子には、MBSのニュース番組「VOICE」が展開している、「がん検診啓発キャンペーン”Jump over Cancer”」の協力のもと、子宮体がん罹患した方の体験談を“Patient Voice(患者の声)”として掲載しています。

キャンサーネットジャパン理事の川上祥子は次のように述べます。「子宮の病気ということで、“女性”である自分とあらためて向き合わざるを得なくなっているかもしれません。しかし、がんの告知を冷静に受け止められなかったり、医師がいていねいに説明してくれても理解するのが難しかったりするのとは普通のことです。この『もっと知ってほしい 子宮体がんのこと』は、自らが納得して治療を受けられるように、まず、子宮体がんそのものや標準的な治療について、少しでも役に立つ正確な情報を届けたい思いから制作しました。」

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン

1991年二人の医師により、米国における乳がん患者向け冊子を翻訳・出版・無償配布した事に始まります。その後、各種がん患者向け書籍の出版、NCIキャンサーファックスの翻訳提供(現在終了)、NCI PDQの翻訳Web公開(現在更新終了)、電話・手紙・メール・ファックスでの「セカンドオピニオンコール」等のサービスを提供してきました。2002年には、東京都よりNPO法人格を取得し、同年、キャンサーネットジャパンホームページが日経インターネットアワードを受賞しました。2007年1月からは組織を一新し、専用事務局を開設し、がん医療の啓発イベントの開催、教育事業、市民へのがん啓発活動を行っています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.cancernet.jp/>

【冊子に関するお問い合わせ先】

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン
Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073